

# 分けるのには訳がある 小さなことを積み重ね、すてきな町へ

## 長島町のゴミ事情

本町の令和元年度のごみ処理量は約2500トンで、その処理にかかる費用は一人当たり8291円の負担となっています。

本町から北薩広域行政事務組合に搬入されるごみの内訳は、燃えるごみが90%、燃えないごみは4%、資源ごみはわずか6%で、長島町のリサイクル率は7.5%にとどまっています。



無料のレジ袋は、ごみ袋の代用として使われ、封をされたレジ袋は、中身の確認のために開封する手間が増えてしまいます。

## 手作業による再分別

エコリア北薩に運ばれた資源ごみは、はじめに職員が一つひとつを手作業で丁寧に確認。分別されていないごみを取り除いています。

レジ袋はごみ袋の代用として使われ、分別せずに出されたごみが入っていることもあります。その中には、食べ残しが付着した容器やガス抜きされていないスプレー缶などさまざまです。ごみが分別されていないと再資源化できず、装置の故障の原因にもなります。



全国ではスプレー缶の不始末により、ごみ収集車やごみ処理施設の火災、爆発が発生しています。中には大惨事となる事故も起きています。



プラスチックごみは手選別され、「ペール品」と呼ばれる正方形のブロック状に固められます。その後、再資源化工場へ送られ、新しい製品の原料となります。



分別されていないごみの例



3市町から集まった1週間分のペットボトル

## 捨てればごみ、分ければ資源

ごみの収集運搬から中間処理、最終処分まで、町内で出たごみはすべて市民のかたがたが納めた「税金」でまかなわれています。

ごみの増加は自然環境を破壊するだけでなく、実は町の財政を圧迫しています。ごみの減量には、分別の徹底が

スマートフォンアプリ「さんあ〜る」から、ごみの分別方法や収集日を調べることができます。ぜひ、アプリをインストールして利用ください。



iPhoneはApp Storeからインストールできます



AndroidはGoogle Playからインストールできます



## 子どもたちが望む、すてきな長島

川床小学校の総合学習で、児童らが校区内のごみ拾いに取り組んでいます。5年生の池林由真さんがごみ拾い



受賞した池林さん

すてきな長島町へ

池林 由真

「総会で川床の地域探検に行きます」と先生が言いました。わたしは「探検」という言葉を聞いたしゅんかん「やった」と心がおどろそうでした。でも、「探検とごみ拾いも一緒」という先生の言葉でガクンとうれしくなりました。ごみ拾いしなくて、きれいでしょ」とため息もつきました。そして、ついに探検に行く日がやってきました。山門野方面と川床方面に行くのですが、山門野方面に行きました。すると、学校から出てすぐに友達のごみを見つけました。「えっ、きれいだと思うんだけど」きれいだからごみ拾いはしなくていいと思っていた自分がはしくなりました。その後、ペットボトルやプラスチック、たばこのすいがらなど落ちていた。皆さんのごみをみんなとどん拾いました。ごみぶくろに入りきれないほどのごみをたくさん拾いました。「ポイ捨てをしている人がこんなにいるなんて」とポイ捨てをしている人がいることに、とても残念な気持ちになりました。

## 職員の声 町へのお願い

皆さんには、ごみの減量化、分別の意識をもってほしいです。

最終処分場はすでに満杯に近い状態であり、ごみの減量は重大な課題です。ごみの減量化は、小さな



北薩行政事務組合 施設管理課 桐原祐吉 課長

この積み重ねですが、町民の皆様が一体となって取り組めば、十分減らせます。長島町はすてきな町です。次世代のために、すてきな町を残しましょう。